

令和4年度(5年産)ビール大麦等成熟期予測①

農業試験場研究開発部麦類研究室

予測日：令和5年4月11日

○ニューサチホゴールドンの出穂期は4月8日であり、平年より11日早かった。
○成熟期予測によると、農試本場におけるニューサチホゴールドンの成熟期は、平均気温が平年+1℃で推移した場合、平年より4日早まる見込みである。

【出穂期の概況】

今年度のビール大麦の出穂期は、農試本場(宇都宮市)のニューサチホゴールドンは4月8日(前年4月15日、平年4月19日)、サチホゴールドンは4月9日(前年4月15日、平年4月18日)であり、平年値の基礎データとなる過去9年間の中では最も早くなった。

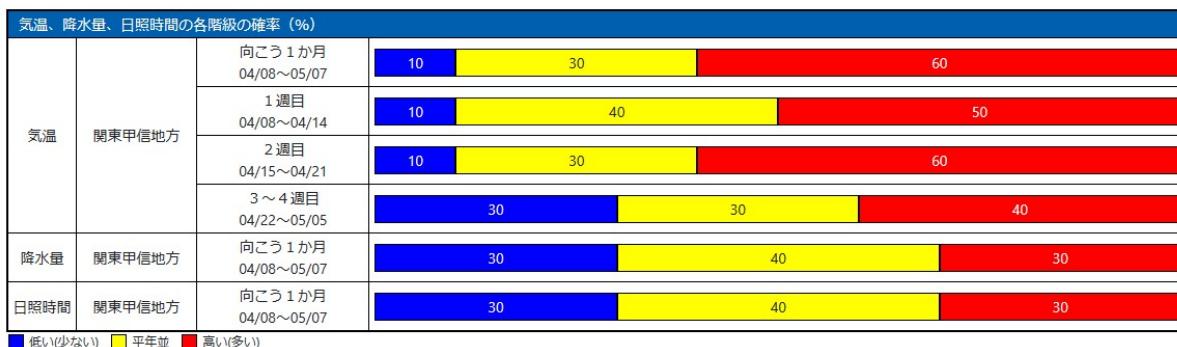
品種名	出穂期				
	本年	前年	差	平年	差
ニューサチホゴールドン	4/8	4/15	-7	4/19	-11
サチホゴールドン	4/9	4/15	-6	4/18	-9

※平年値

ニューサチホゴールドン及びサチホゴールドン：平成25～令和3年度(9年間)

【今後の気象動向(気象庁季節予報令和5年4月6日発表より引用)】

- 4月上旬は気温がかなり高くなる可能性があります。
 - ・ 向こう1か月の平均気温は、平年より高い確率が60%
 - ・ 降水量は、平年並の確率が40%
 - ・ 日照時間は、平年並の確率が40%



※1週目 : 4月8日~4月14日
2週目 : 4月15日~4月21日
3~4週目 : 4月22日~5月5日

【成熟期予測】

出穂期以降の平均気温（有効積算温度）により成熟期を予測すると、今後、気温が平年並で推移した場合、農試本場のニューサチホゴールドの成熟期は**5月28日**、平年に比べ+1℃で推移した場合は**5月24日**となる（前年6月1日、平年5月28日）見込みである。また、平年+2℃で推移した場合は**5月18日**となる見込みである。

気象庁季節予報によると、向こう1か月の気温は平年より高くなる確率が60%であり、成熟期は平年より早くなると考えられるため、収穫適期を逃さないよう注意が必要である。

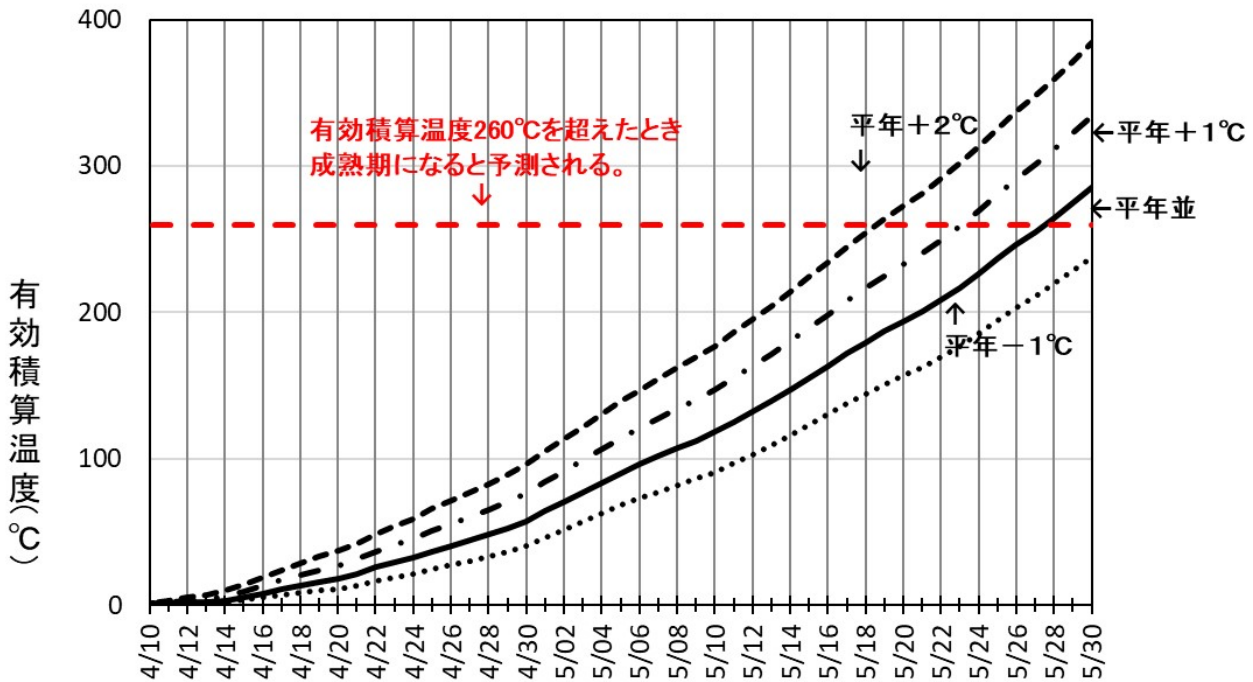


図 ニューサチホゴールドの成熟期予測(農試本場)

※有効積算温度＝ Σ （日平均気温－有効下限温度（11.4℃））

※日平均気温は気象庁宇都宮アメダスの観測データを使用した。

※有効積算温度及び有効下限温度は、ニューサチホゴールドにおける出穂期から成熟期までの積算温度で算出した。